



住みよい幸せな国づくり

NPO 法人
日本・デンマーク
生活研究所【会報】
第5号(2012年 吉月)
発行人 千葉 忠夫

* デンマーク生活便り ④ *

国民学校 Folkeskole

理事長 千葉忠夫

デンマークでは義務教育と言わず教育の義務と言い、その期間は0学年から9年生までの10年間で、小学校中学校の区別はなく、小中一貫教育である。0学年は6歳から1年間で幼稚園学級とも呼ばれ自由奔放の幼稚園生活から1年生になるために時間割に添った日課を送れるよう、例えば1時間目は絵を画いて遊びましょう、2時間目は数字で遊びましょう、3時間目はアルファベットをと言った具合に時間の概念や月日、四季、自分の家の住所等を覚えさせる。以前は幼稚園学級までは就学前教育のため敢えて読み書き算数などを原則として教えない方針であったが、2009年に幼稚園学級が教育の義務に組み入れられるようになり現在ではより積極的に読み書きを教えるようになっていく。

日本の教育基本法と同様にデンマークには国民学校法がある。

DENMARK 国民学校法(Folkeskoleloven)

第1章 国民学校の目標

第1条

1. 国民学校は、保護者と協力して、生徒に、国民学校終了後の進学へ興味と、より一層の学習意欲を持たせるよう、デンマークの文化や歴史に親しみ、他の国の文化や自然環境の中での人間の共生に理解を深める資となるよう、生徒個々人の多岐にわたる成長を促進させる知識ならびに準備能力を養成させる。
2. 国民学校は教育指導要項(方法)を吟味し経験と探求の場を広げ、生徒の洞察力と想像力を活発にする意欲を持たせ、事態に対処する基盤となる自己成長の可能性に自信を持たせる。
3. 国民学校は生徒が国民主権の社会に自由に参加する準備をし、社会で権利と責任、さらには連帯責任を負うことを涵養する。学校の仕事はしたがって生徒が自由意志を持ち、平等、敢えては民主主義を理解させることが特徴である。

この国民学校法で1学級の生徒数は28人までと決まっているので、ある年30人の入学者数で2人だけの定員オーバーだから30人の1学級で良いかとはならず、15人ずつ2学級を編成しなければならない。

デンマークには国定教科書は無いので文部省が出している各学年、各科目の教育指導要綱にもとづいて、教師が自分でプリントを作って授業をしてもいいのだが、普通は市販のものを使っていることが多い。

デンマークで優秀な教師といわれる教師は自分が担任する学級から「いじめ」や「落ちこぼれ(登校拒否)」を出さない教師のことであり、進学率が良くなったというような知的水準の向上より情緒的、社会性の向上を重視していることである。

学級担任は週で一番授業持ち時間が多い国語の先生、次に多い数学担当の先生が副担任となるのが一般的である。9年生になるまで試験はないが、生徒の理解度を確認するテストはある。試験とは9年生卒業時に行われる国家統一の試験で、科目毎に点数評価されるが決して何人中何番などと生徒間に差をつける評価はしない。成績表がないので年2回行われる保護者との面接で担任教師から各科目の理解度や情緒面での発達度などを聞くことが出来る。保護者との面接時に生徒も同伴することが出来るし、担任のみならず、副担任あるいは聞きたい科目の受け持ち教師を面接時に同席してもらい、例えば何故自分の子供はその教師の担当する科目が得意なのか等質問することが出来る。

特に気が付く日本の学校との大きな違いは何処の学校でも生徒が画いた絵が廊下に張られているが、日本のように「金賞、銀賞、銅賞」などと差をつけないことである。体育や音楽等の個人の感性、体格の相違により結果が異なる科目にも差をつける評価はしない。要するに個々の素質、体力、学力が違って当然という理解をしているので成績により順番をつける、人に差をつける教育は行わないのである。

9年生を終えると高等学校進学ということになるが、意味のない学歴社会のために高等学校進学率が100%に近い日本とは異なり、生徒たちは自分の将来をしっかりと見つめて進学の選択をするのである。高等学校への進学率は約55%であり、約30%が従来の大学進学を目指す普通高校、約25%が商業高校や工業高校に相当する。全体の残り約40%は職業別専門学校に進学する。日本の中卒に相当する時点で、将来を見据えて自分になりたい職業を決定できる8年生(中学2年生)頃から職業選択の指導が行われ、9年生(中学3年生)になると



写真提供: 金川仁子

※次頁に続く

※(前頁からの続き)

希望する職種の現場に1週間ほど職場実習に行くことが出来るので、中卒前に将来の進路をおおよそ決定できるのである。ところで高等学校進学に際して入学試験がないのは中卒の時点で高等学校の教育レベルを全う出来るか否かを判定されるからである。したがって、職業別専門学校に進学するものは自分が望む仕事に必要な教育を受けるためにその道を選ぶことになる。高等学校も職業別専門学校も修養年限は約3年である。デンマークには塾や予備校がないので、高校進学に学力あるいは情緒面での発達不足の生徒に対して義務ではないが10年生という制度がある。

高等学校卒業後の進路は例えば小中学校に相当する教師、施設勤務の生活指導教諭、社会福祉士、看護師、助産師、理学、作業療法士、臨床検査師、レントゲン技師等を希望する者は学士号を取得する約4年制の大学(College)へ、医者、歯科医、弁護士、建築士、薬剤師、高等学校教師等になるものは約6年制の大学(University)へ進学する。

障がい児に対する教育として特別教育支援学校が存在するが、障がい児教育のための特別な法律があるわけではなく全て国民学校法に従って実施される。障がいを持った者も教育の義務を終えた後25歳までの間に約3年間の特別計画された教育(STU)を受ける権利を有している。

その他世界に例のない学校で17.5歳以上のものは誰でも入学できる市民大学(Folke Højskole)があり、教育費無料のデンマークにあっても、有料で期間は3ヶ月～6ヶ月と短期間ではあるが全寮制で生涯学習の場で全国に約80校存在する。

☆第2回研修塾 in 定山溪を開催☆

平成24年(2012年)7月6日～8日

北海道定山溪に於いて第2回研修塾(短期宿泊型フォルケホイスコーレ)を千葉理事長の主導のもと開催いたしました。デンマークの関連先“Nordfyns Folkehøjskole”「日欧文化交流学院」の銭本隆行学院長の講義や福島第一原発事故からの避難に大変なご苦労なさっている介護施設経営の鈴木康弘・洋子氏御夫妻の体験談も伺いました。



第2回研修塾(北海道定山溪)参加者の皆様

* 総まとめ報告★研修塾 in 定山溪 *

☆2012年7月8日9:00～研修塾総まとめ

きらくえん倶楽部大樹町 管理者 松下 寛

第2回の研修塾での総まとめグループワークでは、「日本の良いところ、後世に残したい事」3点と「日本が抱える課題」5点を参加した塾生がそれぞれ3つのグループに分かれて、2日目の夕食後から夜遅くまで話し合い、そして最終日に各グループでまとめた内容を発表し、この研修塾からの提言として、以下の通りにまとめあげました。



『日本の良いところ、後世に残したい事』

- ① 日本古来より大切にしてきた「伝統文化」・「風習」・「生活の知恵」・「四季折々の行事」
- ② 平和憲法
- ③ 思いやりの心(結・絆)

『日本が抱える課題』とその解決策

- ①教育の問題→教育を社会に結びつけるシステムの確立。家庭教育の見直し、親の教育。学校の実情を広く国民に示し、国民の意識改革につなげていく。
- ②エネルギー施策→原子力への依存が強すぎる。自然エネルギーへの移行。生活習慣を見直し、電気ばかりに頼らない。原子力発電の廃止を当研究所の提言とする。
- ③政治→主権在民を改めて進める。
- ④公務員の役割→世の中は公務員の削減を当たり前のように進めているが、雇用を確保し、税収増や国民の生きがいにつながるため、逆に公務員の数を増やすべき。
- ⑤日本国憲法について→自衛隊の武力行使容認、最低生活保障など国民の規範となる法律が誤った方向へと進んでいる。もう一度憲法を勉強し、国民の意識改革につながるような活動を行っていく。

今回の研修塾では、『日本の若者を元気にする』という新たなミッションも加わりました。危機に瀕している日本を変革していくには、並大抵なものではありません。しかし、変革への第一歩を出さなければ、崩壊してしまいます。若い世代の力もとても重要です。

日本人には思いやりの心、絆が残っていると信じています。「幸せな国になるために、日本再建へ」地道な活動を参加した研修生同志が決意を新たに、それぞれの地元に戻りました。

第1回、第2回と研修塾を重ねるごとに、志を同じくした人たちのつながりを強く感じました。最後になりましたが、私自身初めて参加させてもらい、多くの学びをいただきました。また、研修場所を提供していただきました、ジャパンケアサービス様に感謝いたします。ありがとうございました。

第1回研修塾 Folkhøjskole in 八幡平 「日本再建計画」課程に参加して

東八幡平病院 病院長 及川 忠人

第1回研修塾の準備経過と論議内容等の要点と課題について印象を合わせてその概略を振り返りたいと思います。

これまで社会福祉法人カナンの園と一般財団法人みちのく愛隣協会が共同主催して、デンマーク研修を千葉忠夫先生の御支援を受けて行い、昨年夏 2011年8月上旬には継続して第4回合同海外研修を行うことが出来ました。その研修の中で千葉忠夫先生から御自分の余生を工夫して日本復興への活動に集中し日本での研修塾開催のご希望を伺い、その情熱に感激して、小生も出来る限り御協力することを申し合わせておりました。

そのような背景の中で第1回研修塾を八幡平で行うことの御要請を受け、一般財団法人みちのく愛隣協会東八幡平病院保養所「愛隣荘」にて、第1回研修塾を開催することが内定致しました。しかし保養所として時々職員と御家族が使用する簡易宿泊が可能で自炊設備があるのみの保養所に過ぎません。

NPO 法人太田事務局長との連絡の中で、沢山の女性参加もあることや参加人員の多さを知り、当財団中軽米次長とも相談の結果、交流会等の開催は可能であるが、宿泊までなると、病院職員は慣れていないこともあり、遠方から参加される研修者に失礼にあたるものがあっては問題であるとの意見が出されました。研修費の予算範囲内で可能な方法として、隣接する八幡平ハイツの利用が浮上致しました。そこで今回の研修では愛隣荘は交流会・夕食会の会場としてのみ使用し、研修と宿泊は八幡平ハイツに依頼することにして、仮予約を行いその推移を見守ることに致しました。結果的には送迎マイクロバスの配慮もあり予算範囲内で第1回研修塾が開催されるに至ったことは、感謝で御座いました。

特に栄養部と施設管理課の職員が熱心に会場の設営と、丁度早春の「春の七草」や新鮮な自然食を中心に手作りでの夕食会となり、参加会員の好評を得たことは、デンマーク国民高等学校日欧文化交流学院での短期研修を終えた職員等の熱意も加わり千葉忠夫先生やボーゲンセの職員の方々の御支援を得た「デンマーク研修」への感謝の思いが込められ、熱心に準備してくれた職員達の努力に敬服しつつ誇りに思っております。

大自然の恵みと晴天に恵まれた早春の清々しい環境下で、第一に川島先生の「日本を憂う」という発題講演、そして第二に Nordfyns Folkehøjskole のモーンズ校長による「デンマークは如何にして社会福祉国家になり得たか」という素晴らしい御講演を頂き、三番目に千葉忠夫先生による「住みよい国“社会福祉国家”の方程式」という御講演を頂き夕食後はグループに分かれて参加者による「日本での最も重要な課題を5つ

列挙する」という検討課題を頂き、熱心な論議がなされました。これらのグループ討議を翌日の午前に最終的にまとめ、総合討議を行いました。その中で第一は教育の本質的な振り返りと充実が必要であり、デンマークの国民高等学校のような社会人のための学校を日本にも作るべきであるとの意見があり、第二に「柔軟性のある社会システム」が日本の社会に必要であり、やりなおしの効く社会を目指すために人間関係等の人生への啓発はもちろん、年金・医療・介護保険等の制度的改革が必要であるとの意見が出て、合わせて自殺率が依然として高いことへの対応が必要であり、自殺率低下が大きな課題として指摘されました。第三にはエネルギー問題が検討され、デンマークは風力発電が約20%のシェアを持ち2050年までに全てクリーンエネルギーにすることが目標とされていることに学び、日本では原発問題等が論議されている中でその具体的方向や展望を図ることが必要であるとの意見がありました。第四は「食糧自給率の問題」が指摘され、国としての最も大切な課題の一つであり、その向上と「食料の確保」は国民の最大の課題であるが、関心が極めて低いことも課題として指摘された。第五に指摘されたことは「日本の民主主義のあり方」であり、現実には一人一人の選挙における一票の重さについて、もう一度吟味し直すことが必要であり、特に官僚主導の政治に対して、主権在民の政治の実現ならびに真の民主主義への配慮が必要であり、平等ということに関する考え方を問い直す必要がある等の熱心な論議がなされました。

今回の研修での圧巻はモーンズ校長によるデンマークの社会福祉の歴史的概観が重要と思われました。ヨーロッパのフランス革命等の潮流の歴史的ながれの中でデンマーク王室の先見的な考え方もあり、デンマークの農民が自由を獲得するまでの歴史とそれに影響を与えた実存哲学者キルケゴールそして国民高等学校の創設者グルドヴィの活躍や考え方が紹介されました。特に人生に対する啓発と人生を如何に生きるかという若い社会人に対して行った国民高等学校の創設と継続の実態は、今日の日本の「教育の荒廃の現実」を顧みる時にこれからの改革の方向が生まれ出ることを期待することがさらに最も重要な課題の一つであると思います。

2泊3日の短期間でありましたが、日本が直面する大きな課題を踏まえた論議を積極的に行うことが出来たことは有意義であったと思います。まだまだ大切な課題が残されていることも事実ですが、今回第1回研修塾で論議された内容のさらなる吟味が必要であると思われま。日本が今直面する多くの課題について熱心な論議がなされませんが、千葉忠夫先生が問題提起されている東日本復興計画試案からは程遠い内容であるとの反省もあります。今回第1回の研修塾を支援する機会が与えられたことに心からの感謝を申し上げ、不十分ではありますが本研修塾の概略的な内容報告に替える次第であります。

(全貌を現した岩手山→)



*** 日本を憂う ④ ***

理事 川島正仁

Stay hungry・Stay foolishこの名言は先日亡くなったアップル社CEOのステーブジョブズ氏が2005年のスタンフォード大学での卒業式での挨拶の言葉である。「ハングリー精神を持って、愚かになれ」

私は、今の我が国の若者を見てこう叫びたい、「チャレンジ精神を持って、素直な気持ちを忘れるな！」社会があまりにも萎縮しているせいか誰もがリスクを怖れたがらない、いわゆる「なあなあ主義」に徹してしまう。この社会の風潮が若者から「チャレンジ精神、前向きな姿勢」を奪い取っているのだ。これでは私たちの社会は退化していく一方だ。寿命が伸び、ますます高齢者が増加し、少子化が進んでいく。今こそ、国民全員で日本の将来を責任を持って考えよう。

*** 真の民主主義とは ④ ***

理事 前田正志

皆さんは「正義のためならどんな手段・方法を使っても良い」とお考えでしょうか。日本や中国などでは「目的のためには手段を選ばない」という態度は受け入れられやすいようです。しかし、民主主義を考える場合は、目的実現のための手段・方法にも適正さが要求されます。つまり「目的のためは手段を選ばねばならない」ということになります。

人によって異なる「正義」のために、どんな手段でもとられることになれば人間社会は大混乱に陥るでしょう。テロリズムが最たるものです。

日本でも犯罪捜査の場合であっても違法な証拠の収集は認められません。たとえ正義の実現のためでもルールに基づく適正な方法が用いられないとならないのです。

【第4回の実践】

自分の目的実現のために正しい方法を用いているか意識してみよう。

お知らせ NPO法人日本・デンマーク生活研究所のホームページがリニューアル♪ URLを変更しました。
新URLは <http://www.djsli.com> です。

編集後記：(小さな幸せ便り)

今年の夏の暑さは尋常ではなかった。9月に入っても猛暑が続き北海道でも30度を越えていると便りが届く。それでも小さな秋がやってきた。新米に梨・葡萄と実りの秋を味わうたびに幸せ♥先日訪れた定山溪でも心温まるおもてなしが続いた。管理人の方の心遣いが身に沁みる。原発事故から避難した鈴木御夫妻のお話を伺うと電気より無事に生きる方が大切と思う。デンマークは冷夏だったらしい。異常気象は困る。だが芸術の秋・馬肥ゆる秋は確実に来る。四季を愛でるのは幸せ♥編集責任者:野屋敷いとこ

☆ 研修塾参加者募集 ☆

~Weekend Folkehøjskole in Okinawa~
~日本を住みよい国にするための方程式~

- ☆第3回研修塾: 下記により開講します。
会員の他一般の方もご参加頂けます。
- ☆日程: 2013年2月22日(金)~2月24日(日)
☆会場: 「かんぽの宿 那覇レクセンター」等
☆募集人員: 先着20名を予定
☆参加費用: 33,000円 : 研修・宿泊・食費等含む
(当研究所会員: 30,000円) 那覇空港 集合
- ☆講義
- 1:『日本を憂う』 講師: 川島正仁
 - 2:『沖縄が抱える問題』 講師: 村田涼子
 - 3:『社会を変える定義の理解』 講師: Bent Laursen
オーデンセ生活指導教諭養成大学講師
 - 4:『住みよい国にするための方程式』
講師: 千葉忠夫
 - 5:『地方分権・道州制・琉球州』 講師: 野屋敷いとこ
日本再建グループワーク 他
- ☆お申込み: 当研究所事務局 FAX:03-3712-6902
(問合せ) e-mail (katze2009@live.jp) 宛て
(一般の方でお申し込みご希望の方は事務局にご照会下さい。) 応募期限: 2013年1月22日(木)



日本再建グループワークでの熱心な話し合い
Folkehøjskole in 定山溪

☆勉強会のお知らせ☆

千葉(稲毛)で毎月第二金曜日午後6時半より開催。
デンマークや各国に学び、幸せの国を考えませんか?
参加希望者は下記までお問い合わせください。

Tel:043-245-2090 Fax:043-245-2091 (川島)

E-mail: info@masahito-k.net

発行所

〒274-0822

千葉県船橋市飯山満町 2-515-2

Tel: 047-462-4358

NPO法人新ホームページ

<http://www.djsli.com> (URLが変更)

オフィシャル・メールマガジン更新手続中

ご希望の向きは katze2009@live.jp まで
「メルマガ希望」とお申し出願います。